

インターバンクの声（2015年4月6日）

3日に発表された3月の米雇用統計が市場予想を大きく下回る結果となった。水曜日に発表された民間のADP雇用統計が予想を下回ったものの、翌日の新規失業保険申請件数に極端な変化は確認されず、ここまで非農業部門雇用者数の伸びに減少があるとの予想は少なかった。為替市場ではドル・円が1円以上の円買い、ユーロ・ドルに至っては、150ポイント近くユーロが買われる反応を見せた。市場のあちらこちらで、米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げ開始時期が予想以上に先延ばしされることになるとの観測が広がりつつあるようだが、それにしてもドル売りのインパクトが遠慮がちだったような気もする。ちょうど復活祭の連休と重なり、欧州勢の参加がほとんどなく、米国市場でも株式市場は休場となり、市場に通常通りの厚みがなかったことが影響した可能性が高い。一時期に比べれば極端なドル高に対する見方も減りつつあったようで、ユーロや円の売りポジションが少し減少していたことも衝撃を小さくしたのかも知れない。とにかく、暫くはどこまでドル売りが進むのかを伺うような時期に突入することになりそうなので、指標結果や要人発言に今まで以上に警戒が必要だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。